

今から19年前のお話。当時、私は42歳。アナタは何歳でした？

1992年は仕事の減少が激しく、暴動の起きた年でした

あれから約20年、釜ヶ崎は、大きく様変わりしたと、改めて認識

人の生存率は、60歳中盤が低いようです。70歳まで生き延びると、結構後は長生きコースで80歳越えて生きる傾向があるように思えます。

そんな傾向を感じながら、棺桶の蓋が閉まるまでに少しでも身のゴミを少なくしようとしていたら、裏面のポスターとかビラが出てきました(現物はA3の大きさで、夜間学校ニュースより大きい)。

日付が入っていて「1992年7月31日」となっています。その日付の後に、張り出されたか、配られたものだと思われます。

裏面には、グラフが幾つかあります。センターの求人数は、1991年から、1992年にかけて大きく減少しています。市更相の生活相談件数は、1992年9月に、大きく増えています。表を見れば、増えたのが「金銭貸付け(生活費)」であることがわかります。

ようするに、仕事が大きく落ち込んだので、対策が必ずやだとして要求したら、「相談者が困らないように、資金は十分用意してある」と役所が答えた。それが7月です。役所がそういうのなら、と、多くの人が相談に押しかけたのが9月下旬。毎日、600人、700人がお

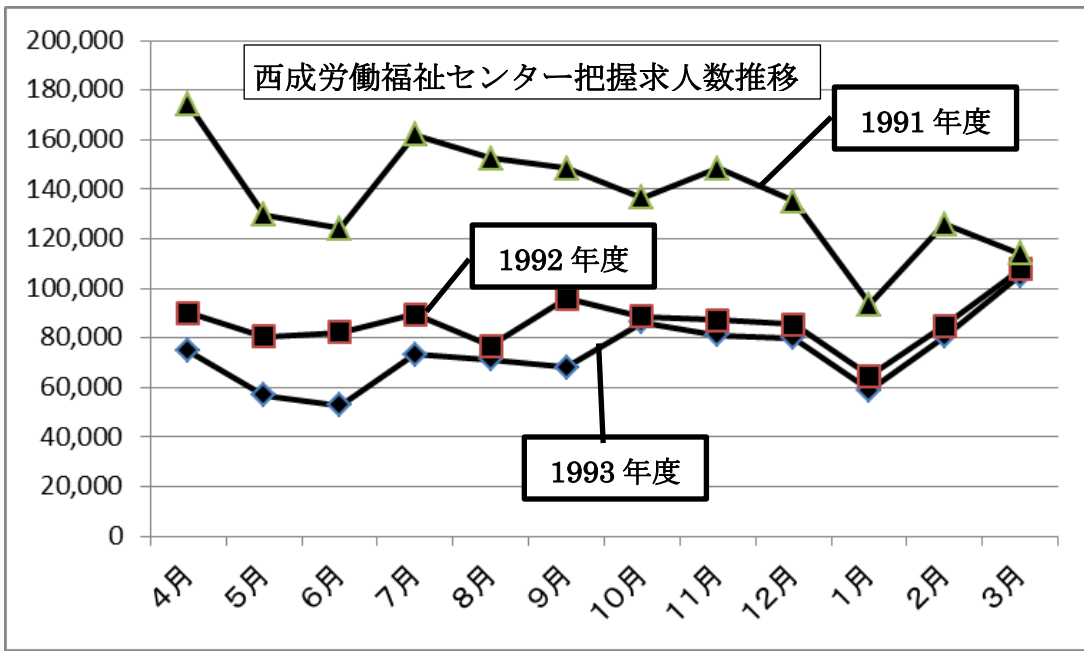
金を借りに行つたところ、貸付資金が底をつき、市更相の窓口を閉めざるをえなくなりました。アテが外れて怒つた人々が石を投げ始め、暴動になったという次第。その後、センター夜間開放、大テント、夜間宿所、特掃の対策が続く、現在は生活保護が主流となっています。

生活保護も、現在の方法にスナリとなつたわけではなく、1993年12月30日の毎日新聞に、初期のゴタゴタが紹介されています。

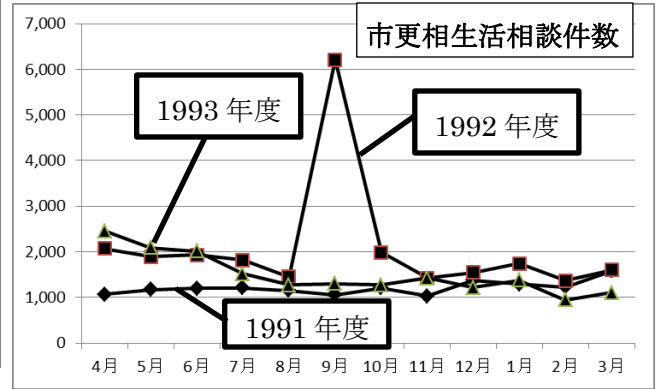
客の減少に対応するため、93年3月「オーシャン」がアパート化。労働者支援団体がこれを利用して生活保護申請を支援したところ、約60人程は認められたが、8月になつて、「アパートでなく実態は簡易宿所、狭い上に室内に自炊設備もなく、年寄り住む場所として好ましくない」との理由で、利用を認めなくなったという記事です。

今では、簡宿転業アパートは当たり前前で、釜ヶ崎地域外でも敷金の要らないマンションが増え、場合によっては敷金支給もありですから、大きな変わりようです。

夜間宿所・特掃・炊き出しも、時代の変化に応じて無くなるべきもの。そう考えるのは早計でしょうか？



←センターが把握する求人数は1991年度から1992年度にかけて大きく減少し、1993年度も仕事が少なかったことを示しています。



民生局が約束しました！

1992.7.31.

仕事にアフレた仲間のみが！  
野宿をしいられ、くらしが立たない仲間のみが！  
病気でケガに苦しんでいる仲間のみが！  
大阪市民生局の 福祉課長は、次のとおり約束しました。

「わたくしどもは、釜ヶ崎の緊急事態に対して、市更相をとおして対応いたします。「臨泊」を速に、「炊き出し」はしませんが、それに負合うだけのことは、さっさと対応させていただきます。とうとう必要の相談にとも、福祉の相談にとも、相談に来られたかたが断わられることのないように、資金を十分に用意してまいります。これだけ（はつきり）、みんごに申しあげることができます。」(1992.7.22.市役所地下会議室)

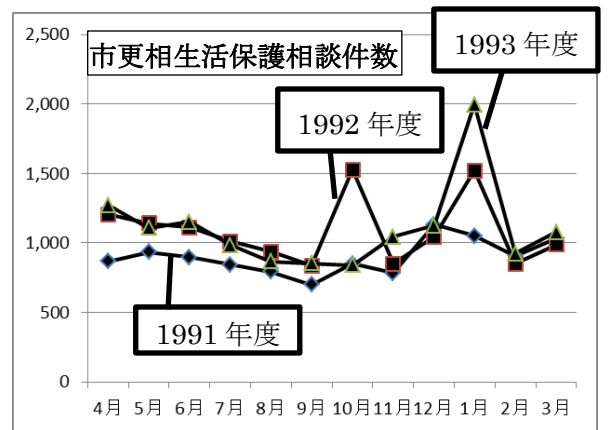
アフレと野宿と体の弱い弱で、釜ヶ崎の仲間の（い）ちとくらしが危うな状態にあることを感じ取って、「釜ヶ崎みんご救済協会」は、大阪府と大阪府に対して、6月10日、「申し入れ」をした。

申し入れ

1. 早急に公共事業をふくめて、日暮の労働者に仕事をあたえること。
2. 仕事か十分にふくまれている間、労働センターのIPを、夜間、開放して、野宿をせざるをえない労働者に利用させること。
3. どん底木賃がつかなく、釜ヶ崎周辺に放置されている空き地を市が借り受け、「臨時宿泊所」を建てること。
4. 気晴らしのため、「炊き出し」をすること。(1992.6.10.)

ふくまれている労働者の仲間たちと（い）ちには、5回にわたって、押しかけられたが、ついに、さっさとこの要求を、行政は、ついに、断わられた。ついに、くらしがこれにだした解答が、上記の約束です。

釜ヶ崎みんご救済協会



	1991年 平成3年	1992年 平成4年	1993年 平成5年
相談処理件数	14,566	25,037	18,010
金銭貸付	5,111	11,785	5,798
生活費貸付	4,547	10,815	5,200
交通費貸付	414	780	490
その他費用貸付	150	190	108
外傷手当	81	40	44
投葉	132	165	281
関係機関紹介	1,341	1,462	984
貸付金返済	2,012	2,210	2,016
電話使用許可	226	471	466
助言指導	5,663	7,990	7,674
単泊		914	747

1992年（平成4）年7月23日、反失業闘争開始。

9月21日生活相談窓口に並んだ111名が「貸し付け金」（2000～1000円）受け取る。9月24日、貸付金約600名（2000円）。釜日労働は貸付金でなく、失業対策の窓口設置、ドヤ券・食券を要求。9月25日、貸付金712名（1000～1500円）。9月26日、貸付金858名。9月29日、市更相が30日をもって緊急相談窓口閉鎖を発表。9月30日、1,142名の大半が貸し金（1000円）受け取り。1日午前11時、市更相玄関閉鎖。午後3時市更相職員退去。暴動発生。